

令和4年度

聖坂学園 事業所・施設事業報告

オリブ工房
オリーブ・フードファクトリー
ナザレ工房（パン工房ナザレ）
シーダひのき工房
シーダ日野学園
オリーブの家
ナザレンホーム
眞砂ホーム
相談事業所ひじりざか
横浜市神之木地域ケアプラザ

理事会 令和5年5月24日

社会福祉法人聖坂学園

1. 施設運営について

令和4年度においても法人理念を基として、障害福祉分野では、施設入所支援、障害福祉サービス事業の生活介護、短期入所事業、共同生活援助事業及び計画相談事業を行いました。又、地域ケアプラザは地域福祉の拠点として、介護保険制度及び横浜市委託事業における各事業について、ほぼ事業計画に基づいて実施いたしました。

法人全体で収支の改善について取り組み、毎月経営会議を開催し各事業所の課題を洗い出し数値目標を掲げて、増収に向けて取り組みました。障害福祉サービス事業所では、重度障害者支援加算対象利用者の支援が出来るように、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）をオンラインにより受講し、研修修了者の増員に努めました。定員に対して空きがある事業所では、関係機関に空き情報を提供し、年度途中で4名の新規利用者を確保しました。事業所の利用率向上については、会議にて課題を確認し事業所毎に取り組みました。地域ケアプラザでは、通所介護事業で利用者数が減少しており、現在の利用人数でも事業継続可能なように、通所介護事業から地域密着型通所介護へ令和5年2月1日付で事業変更を実施し増収に取り組みました。個別機能訓練を開始したり、送迎時間を利用者の生活スタイルに合わせる等の工夫をして、利用満足度の向上に取り組んでいます。法人全体の増収への取り組みについては、一定の成果を上げる事ができました。次年度も引き続き取り組んでいきます。

今年度、法人として虐待防止委員会を設置し、事業所毎に委員を選出し年3回委員会を開催しました。会議の中では各事業所の虐待案件等を共有したり、研修の内容を検討しました。2月には正職員を中心に給食委託業者の職員も参加して、虐待防止研修を各事業拠点（3ヶ所）にて実施しました。また、シーダ日野学園では、虐待案件の再発防止の取り組みで外部法人の施設長に訪問頂き意見聴収の機会を持ちました。

障害福祉分野では、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策を行いつつ、コロナ禍以前の活動も少しずつ再開し活動内容の充実を図りました。新型コロナウイルスの感染防止については、職員研修も含めて対策は行っていますが、利用者職員が感染しクラスターが発生してしまう事業所もありました。法人本部や保健所等と連携を図りながら対応しました。シーダ日野学園（入所）やグループホームでは、感染者の療養と濃厚接触者の生活支援を行う事になり、必要な防護策を行って支援を継続しました。職員への感染が広がった際には、各拠点毎（3ヶ所）に関係職員でバックアップを行いました。シーダ日野学園では、短期入所事業をこれまで女性ユニットでの受け入れを休止していましたが、再開を決めて定員を5名に増員しました。また、連泊での受け入れも再開しました。コロナ禍によるキャンセルもありましたが、口コミで契約者も増えて、ご利用は増加傾向にあります。喫茶コーナー「麦」は9月30日をもって閉店し、職員の休憩や利用者保護者の談笑スペース等、フリーな空間として活用しています。

地域ケアプラザでは、地域ではコロナ禍であってもできるだけ活動を推進するとの方針で、町内会活動・サークル活動の一部が開始されましたが、「夏祭り・盆踊り大

会」等の参加者が密集する事業は中止となりました。地域の高齢者の増加に伴い介護認定を受ける方が増加しています。認定の結果、要支援者となる方が増えていますが、ケアプランを作成する事業者（ケアマネージャー）がいないため、サービス提供が遅れる事態となったり、実施できなくなる可能性があるため、所長会等を通じ神奈川区や横浜市に状況を報告しています。介護予防として地域会場での連続健康アップ講座を企画し、遠方の地域住民も介護予防について知り、実践ができるようにしました。秋頃からフレイル予防連続講座を実施し、参加者から好評いただきました。5年に一度実施されている第三者評価の受審を行いました。8月に契約締結し12月に評価シート等を神奈川区役所に提出しました。

各事業所共に、施設設備の老朽化等による不具合の修繕は、優先順位を考えながら進めてきました。

2. 職員の状況について

職員については、異動職員7名、新採用・中途採用職員は23名でした。また、体調不良等で長期欠勤者が出ました。育児休暇の取得者は3名でした。

宿泊を伴う職員の確保が難しく、シーダ日野学園では支援員の欠員が続いています。職員の確保を行う為に、次年度はローテーション勤務の見直しを行い、人数の確保が出来たユニットについては、宿泊を伴う勤務の時間数の削減を行います。

グループホームでは、職員の体調不良で休職者が出たり、退職した職員の確保ができるまで、地域支援担当が世話人として勤務のローテーションに入りました。

通所の事業所では、年度途中で職員の退職者が出ましたが、利用者の在籍数に応じて職員の確保は行わず、支援主任がフォローをしました。

職員の採用については、人材紹介業者の活用を積極的に行い、成功報酬型の求人サイトや医療介護に特化した求人サイトの活用も行っています。地域ケアプラザでは、専門職の確保が難しい状況にあります。

コロナ禍で外部研修をオンラインで開催される事が多くなりました。障害福祉分野では、サービス管理責任者研修（一部講義）や強度行動障害支援者養成研修等をオンラインで受講しました。

職員の入職・退職・法人内異動報告（パート職員も含む）

| 事業所 施設 (職員数) | 本部 | オリブ 工房 | オリーブ・ フードファ クトリー | ナザ レ工房 (パン工房) | シーダ ひのき 工房 | シーダ 日野学園 | オリーブ の家 | ナザレ ン ホーム | 眞砂 ホーム | 相談事業 所ひじり ざか | 神之木 地域 ケアプラザ |
|--------------------|----------|-----------|------------------------|---------------------|------------------|-------------|------------|-----------------|-----------|--------------------|--------------------|
| 入職合計 | 0 | 5 | 1 | 6 | 2 | 5 | 1 | 4 | 0 | 1 | 5 |
| (正職) | 0 | 4 | 1 | 3 | 2 | 5 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| (パート) | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 5 |
| 異 動 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 退職合計 | 0 | 5 | 1 | 5 | 5 | 6 | 5 | 6 | 1 | 1 | 7 |
| (正職) | 0 | 5 | 1 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 1 | 0 | 2 |
| (パート) | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 1 | 5 |
| 異 動 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |

法人全体 年度内中途採用も含む

入 職 30名（異動7名含む） **昨年度36名**

内訳： 正職 19名 パート 11名

退 職 42名（異動5名含む） **昨年度19名**

内訳： 正職 21名 パート 21名

3. 障害各事業所・施設活動報告について

(1) 利用者の入所・退所 人数報告

| 事業所 施設 | オリブ 工房 | オリーブ・ フード ファクトリー | ナザレ 工房 (パン工房含 む) | シーダ ひのき 工房 | シーダ 日野学園 | オリーブの家 (第1・第2) | ナザレン ホーム (第1・第2) | 眞砂 ホーム (第1・第2) |
|--------------------|-------------|------------------------|---------------------------|------------------|----------------|-------------------|------------------------|----------------------|
| 定 員 (名) | 60 | 20 | 60 | 65 | 生活 50 入所 50 | 26 | 15 | 20 |
| 年度始 契約利用 (名) | 56 | 20 | 56 | 58 | 生活 48 入所 48 | 24 | 13 | 20 |
| 入 所 (名) | 1 (中途無し) | 0 | 3 (内中途1名) | 2 (内中途1名) | 2 (内中途2名) | 2 (内中途2名) | 2 (内中途2名) | 0 |
| 退 所 (名) | 1 | 0 | 3 | 5 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 年度末 契約利用 (名) | 55 | 20 | 54 | 54 | 生活 49 入所 49 | 26 | 15 | 19 |

(2) 利用者支援について

新規利用者は法人全体で12名となり、その内新卒は4名でした。退所利用者は11名で、その内2名はご逝去されました。

新型コロナウイルス感染症への対策として、各事業所とも日帰り旅行やバザー等の集団で不特定多数の人と接する行事は出来ませんでした。しかし、小グループでの外出や利用者作品販売、納涼会・クリスマス会等は利用者職員のみで感染防止対策を行い実施する等、事業所毎に工夫して行いました。

パンやクッキーの製造販売を行っている事業所では、感染防止対策をして店舗販売を継続し、外部での販売や納品など順調に販路を拡げることが出来ました。

新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者となったり、感染を心配して在宅で過ごしている利用者には、電話連絡等により出来る限りのサポートをしました。入所やグループホーム等の生活施設では、新型コロナウイルスの感染者が出た時には、感染者の療養期間が終わるまで出来る限りの感染防止対策を行い、在宅生活を支えました。

相談事業所ひじりざかでは、ご家族の高齢化や逝去に伴う、ライフステージの変化に対する相談、居宅支援の導入や、グループホーム等の利用に向けての取り組みが散見されました。

(3) 各事業の実施件数報告

①生活介護事業年間実施日数 総支援日数 250日 (昨年度241日)

| 事業所・施設 | オリブ工房 | オリーブ・フードファクトリー | ナザレ工房 (パン工房含) | シーダひのき工房 |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 延べ利用数 | 12,627名 | 4,363名 | 12,135名 | 12,425名 |
| 平均実利用者 | 50.6名 (53.7) | 17.5名 (18.1) | 48.5名 (48.6) | 49.8名 (50.6) |
| 定員に対して 利用率(%) | 84.3% (89.5%) | 87.3% (60.3%) | 80.9% (81.0%) | 82.8% (81.0%) |

②短期入所事業の利用人数及び利用日数

| 事業所・施設 | シーダ ひのき工房 | シーダ 日野学園 |
|-----------------|--------------|----------------|
| 延べ利用人数 (昨年度) | 1件 (0件) | 447件 (262件) |

③日中一時事業 (通所施設のための事業)

| 事業所・施設 | オリブ工房 | ナザレ工房 (パン工房含) | シーダひのき工房 |
|--------|--------------|------------------|-------------|
| 延べ利用件数 | 32件 (28件) | 39件 (53件) | 5件 (21件) |

④送迎サービス（通所施設のみ）

| 事業所 | オリブ工房 | オリーブ・ フードファクトリー | ナザレ工房 (パン工房含) | シーダひのき工房 |
|--------|------------------------|--------------------|------------------------|---------------------------|
| 延べ利用人数 | 8, 1 2 2件 (7,597 件) | 3 6 4件 (392 件) | 4, 0 4 7件 (3,978 件) | 1 1, 5 5 6件 (11,297 件) |

4. 神之木地域ケアプラザ事業活動について

(1) 包括支援センター、地域交流、生活支援（公益事業）

①総合相談支援

介護保険業務支援システム「すこやかサン」を導入しました。包括支援センター職員全員が相談経過記録を共有し、課題検討・解決ができるようになりました。

②権利擁護業務

虐待案件 8 件、成年後見案件 8 件

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

民児協、地区社協、地域密着型通所介護の推進会議に参加したり、勉強会を開催したり、事例検討会を開催し関係機関との関係構築を行いました。また、他包括との共催で研修会を開催する等して、ケアマネージャへの支援を行いました。

④介護予防に係るケアマネジメント

地域会場での連続健康アップ講座やフレイル予防連続講座等を実施しました。より具体的でわかりやすい講座となり参加者から好評いただきました。

⑤地域活動交流

自主事業として子育て支援事業（絵本の読み聞かせ、ダブルケアカフェ等）や障害に関する取り組みや地域の居場所支援等の地域支援に取り組みました。

⑥生活支援体制整備

「繋がり・居場所・多世代交流・複雑化した個別相談への対応」の基盤づくりとして昨年度より IT・ICT を意識した働きかけを地域に行っています。「情報難民」ともいわれる高齢者向けにはスマホ講座を行いました。

(2) 介護保険事業

①居宅介護支援事業（ケアプラン作成、居宅サービス提供、事業者連絡調整）

週に 2 回程度の朝ミーティングを実施し情報共有を図っています。

- ・要支援は月 1 1 件
- ・新規利用者 1 3 名

・終了利用者 10名

②介護予防支援事業（ケアプラン作成、事業者連絡調整）

自社（予防プランナー3名・包括職員2名がプラン作成）と外部委託（居宅介護支援事業所のケアマネジャーがプラン作成）で毎月350件程度のプラン作成・請求業務を行いました。「予防プランナー定期会合」を毎月開催し困難事例の報告・検討を行い、適切なケアマネジメントが実施されるようにしました。

③通所介護事業（予防通所）

利用者数減少の為に、現在の利用人数でも事業継続可能なように、通所介護事業から地域密着型通所介護へ令和5年2月1日付で事業変更実施しました。また、満足度向上の取り組みとして、専門ソフトを使用し個別機能訓練を開始し、デイサービス利用に消極的なご利用者の生活スタイルに合わせて、9時前に迎えに行くところを10時に変更しました。

5. 事故報告・ヒヤリハット・苦情、要望解決

| 事業所施設 | オリーブ工房 | オリーブ・フードファクトリー | ナザレ工房 | シーダひのき工房 | シーダ日野学園 | 神之木地域ケアプラザ |
|--------|--------|----------------|-------|----------|---------|------------|
| 事故報告 | 30 | 4 | 22 | 15 | 74 | 2 |
| ヒヤリハット | 15 | 2 | 26 | 14 | 98 | 6 |
| 虐待 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 苦情・要望 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 事業所 | オリーブの家 | ナザレンホーム | 眞砂ホーム |
|--------|--------|---------|-------|
| 事故報告 | 13 | 6 | 9 |
| ヒヤリハット | 15 | 0 | 4 |
| 虐待 | 0 | 1 | 0 |
| 苦情・要望 | 1 | 2 | 0 |

①事故報告・ヒヤリハットの主な事由

骨折、薬：投薬忘れ、飲みこぼし等、一時所在不明、他害（物損、打撲）、破損、転倒（打撲、裂傷）、公用車自損・接触事故等

②苦情要望の主な事由

虐待案件に関する苦情やグループホームでの近隣からの苦情等

③虐待の事例

連絡帳で頭を叩く、暴言と共に頭を叩く等